プレス発表

平成 20 年 11 月 14 日
独立行政法人　放射線医学総合研究所

放医研、フランス放射線防護原子力安全研究所との機関間協力協定を締結
緊急被ばく医療分野および放射線防護分野の相互協力を強化

【概要】

独立行政法人 放射線医学総合研究所（理事長：米倉義晴　以下、放医研）とフランス放射線防護原子力安全研究所（長官：Jacques　Repussard；以下、IRSN）は、この程、緊急被ばく医療分野および放射線防護研究分野における相互協力を推進するため、機関間協力協定を締結しました。

IRSN はフランスの被ばく医療と放射線防護研究中心であり、フランス国内外で起きた放射線被ばく事故の線量評価と治療を積極的に行うなど、被ばく医療と放射線防護の分野では世界でトップの研究所です。この研究所とこれらの研究に関する相互協力を推進し、その成果を普及、促進することにより、日本とフランスにおける原子力エネルギーの平和利用と放射線防護のそれぞれの中心としての役割をさらに強固にするとともに、世界の緊急被ばく医療研究の発展・継承に寄与することが期待されます。

【協定締結の背景】

放医研は、平成 18 年 4 月より開始した第 2 期中期計画に基づき、国民の放射線安全の確保に貢献し、信頼を構築することによって、国民の安心を支える役割を果たすため、放射線安全及び緊急被ばく医療に関する研究を推進しています。放医研と、今回機関間協力協定を締結した IRSN が 2002 年 2 月まで所属していたフランス原子力庁（CEA）とは、1996 年 3 月に「放射線生物学の研究分野における情報交換、人的交流、シンポジウム等の開催」に関する研究協力覚書を交わしており、以後 2 年ごとに開催地を交互に交代しながらワークショップを開催し、研究交流を積極的に推進してきました。1999 年に発生した東海村 JCO 臨界事故に関して、IRSN 側から放射線防護、被ばく医療の専門家が放医研を訪れた際には様々なアドバイスをもらいました。

その後、IRSN とは被ばく医療における治療や線量評価法、環境放射線影響研究や宇宙線被ばく線量評価手法開発などの分野についても、情報交換やディスカッションを活発に行ってきました。さらに、今年度からは放医研の緊急被ばく医療研究の研究員を IRSN へ派遣することになり、今後、人的交流によるなお一層の研究の進歩が期待されます。

原子力先進国であるフランスは、原子力エネルギーの平和利用と放射線防護の研究に関しては世界でもトップレベルに位置します。特に、IRSN は高線量の放射線被ばく時の線量評価と防護研究において優れた成果を挙げており、今回の研究機関間協力協定の締結は、両機関間でのこれらの研究に関する情報交換を活発化、研究協力体制の強化等を大きく進展させることが期待されます。

（参考）

【フランス放射線防護原子力安全研究所】

IRSN(Institute de Radioprotection et de Surete Nucleaire)は、約 1,500 人の研究者と専門家を擁し、原子力安全、電離放射線防護、核物質管理防護分野での研究、評価を行っており、危機管理組織活動、事故被ばく時管理等の活動では大きな成果を挙げています。

フランスの原子力施設の労働者の放射線防護及び被ばく管理は全て IRSN が行っており、フランス以外の国で起きた放射線被ばく事故における線量評価と治療の多くが IRSN で行われるなど、被ばく医療の分野では世界でトップの研究所です。

【協力内容】

（１）一般的な研究情報の交換
（２）特に、相互に同意した情報の交換
（３）短期間の相互訪問
（４）職員の相互留学または相手先での短期間勤務
（５）研究資材またはソフトウェアの相互利用
（６）共同研究および共同プロジェクトの推進

【有効期間】

協定の有効期間は、締結日より５年間とし、以後、延長できるものとしています。

（本件に関する問い合わせ先）
独立行政法人　放射線医学総合研究所
広報課
TEL：043-206-3026
FAX：043-206-4062
E-mail：info@nirs.go.jp